令和４年度

教職課程
自己点検評価報告書

池坊短期大学
幼児保育学科

令和　６年　３月

池坊短期大学　教職課程認定学部・学科一覧

・幼児保育学科

全体評価

　本学の建学の精神は、５５０余年の歴史と伝統を有する華道家元池坊の根本理念、「和と美」である。これは、華道発祥の地である六角堂の開祖・聖徳太子の十七条憲法第一条「和を以て貴しと為す」に基づく。この「和」を、個人の内面的な「調和」、「温和」を重んじ、生活環境や自然との「調和」、そして人々の「平和」をめざす日本古来の精神性と理解した上で、「和」の具現・具象を日本文化の追求してきた「美」であると捉え、和のこころを美しく表すことは人として生きる姿勢の根本であるとするのが、教育理念である。本学では、「池坊短期大学学則」第１条において「本学は、学校教育法にしたがい文化芸術、環境文化および幼児保育に関する専門的な教育を施し、建学の精神である『和と美』を身につけた教養ある社会人を育成することを目的とする」と示し、学則第２条において、その建学の精神に基づく教育理念を明確に示している。この精神を基軸に、伝統文化の創造的伝承、人材形成の基盤の確立を援助・指導、さらには家庭・地域との連携を図ることのできる、時代が要請する専門職を担える人材を養成している。

池坊短期大学　幼児保育学科

学科長　岩野　勝人

目次

Ⅰ　教職課程の現況及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み・・・ ２

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８

Ⅲ　今後の教職課程・運営の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

現況基礎データ一覧・・・１３

Ⅰ　教職課程の現況及び特色

１　現況

（1）　大学名：池坊短期大学　幼児保育学科

文化芸術学科

環境文化学科

（2）　所在地：京都府京都市下京区四条室町鶏鉾町４９１番地

（3）　学生数及び教員数　　　　　　　　　（令和５年４月１日現在）

学生数：池坊短期大学　　　　幼児保育学科９３名／大学全体３２５名

教員数：教職課程科目担当（教職・教科とも）７名／大学全体２３名

２　特色

幼児保育学科では、その教育目標に掲げる「和と美」は、人間活動の本質である「対話(コミュニケーション)、共生の精神性」を包含すると捉え、「子どもの命を守る」ことを実践できる人材の養成を目的とする。この精神を基軸に卒業必修科目として幼児保育学科全員に「いけばな教育」を実施することで、伝統文化の創造的伝承、人材形成の基盤の確立を援助・指導、さらには家庭・地域との連携を図ることのできる、時代が要請する保育および幼児教育の教員を養成する(学則第６条第３項)と謳い、これを受けて、幼児保育学科のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを設定し、短期大学士(幼児保育学)が授与できるカリキュラムを編成している。また幼児保育学科では、学位授与とともに国家資格として「保育士」、また「幼稚園教諭二種」の免許を取得し、卒業後は幼児の保育・教育の現場で働くことを教育目標に掲げている。

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目１－１　教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

幼児保育学科では、文部科学省に提出した設置の主旨にも記載のとおり、建学の精神である「和と美」を理解し、「子どもの命を守る」ことを実践できる保育者の養成を目標とし、教職課程教育の目的・目標をこれに内包する。

すなわち幼児保育学科では、

1.伝統文化の創造的伝承能力
2.子どもの命を守り、子どもを人間として尊重する能力
3.子どもの様相の理解や活用する能力
4.コミュニケーション能力とソーシャルスキル等の習得
5.社会人としてのスキルの習得
6.家庭・地域と連携ができる能力

といった６項目の習得に重点をおいた保育者養成を目的・目標としている。

専門教育科目では、保育や幼児教育の実践に重要である実技系の科目を中心に、これらの演習科目の基礎になる講義科目を配置している。こうした人材養成の結果として、保育士資格・幼稚園教諭二種免許の取得を目標としている。授業の内容は専門教育科目を担当する教員が共有し、効果的な講義を展開できるように定期的に点検している。特に、ピアノ演奏の技術習得が課題となる音楽においては、専任教員２名と３名の非常勤教員による「音楽教員懇談会」を定期的に開催し、授業における問題点や改善点を共有し、効果的な指導を点検している。教育目的・目標に照らして設定するディプロマポリシー、カリキュラムポリシーおよびアドミッションポリシーは、入学時に配付する「学生生活のしおり」に明示しており、 新入生オリエンテーションをはじめ、必要に応じて学生に対し説明している。また、学外に対しては本学の広報媒体やウェブサイト等で広く発信している。さらに「科目ナンバリング」と「カリキュラムマップ」を「学生生活のしおり」に掲載し、履修科目の目的・目標を体系的に確認できるようにしている。各学科に所属する専任教員で構成する学科会議においては、学生の資格取得状況や就職先等の情報と併せて総合的に教育の目的・目標を点検し、教育課程の編成に反映できるよう毎年検討を重ねている。こうした定期的な点検は、学科会議や各種委員会(実習委員会、教職課程委員会)のほかに、教員幹部で構成される教学ミーティングや教授会において定期的に大学内で横断的な情報の共有と点検が行われている。

〔長所・特色〕

幼児保育学科では、学科の教育目的・目標に基づく人材育成が地域・社会の養成に応えているかについて以下のような定期的な点検を実施している。内容としては①保育・教育実習訪問時の園側との面談、②実習生の実習成績票、③定期的に本学も含めた養成校と京都市私立幼稚園協会、京都府私立幼稚園連盟等との懇談会、また地域の幼稚園、子ども園への訪問時等で得た教育的情報を速やかに学科内で共有し、求められる人材育成の方向性を点検する。上記３点に注力しながら教職課程に関わる教職員間で情報共有を図っている。このような点検を定期的に実施し、地域、また時代が求める保育者像を共有し、必要に応じて適時学びの検証、見直しを行うことで、本学の求める「和と美」の精神を保育・教育の現場で実践し得る保育者の養成を目指ざしている。

……………………………………………………………………………………………

基準項目１－２　教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

幼児保育学科では、教職課程認定基準を踏まえ、科目を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員及び現場経験のある教員を源泉に配置している。また、事務局教学部では、学科の教育課程および教職課程を統括的に管理する部員を配置し、実習担当者会議の教員、実習支援室、各ゼミ担当教員との間で情報共有、学修支援体制を構えるなど、適切に教職課程を運営している。

責任ある教職課程における指導のための組織的な取り組みとしては、「池坊短期大学教職課程委員会」を教授会の下に平成 28 年 4 月 1 日より設置し、適切に運営している。また、必要に応じて教学ミーティング、FD 委員会とも密接に連携した体制を整えることで、学科の教育課程全般における教職課程の位置付けを定期的に検証、点検を重ね、DP に基づく保育者養成を健全に保持する体制を構築している。さらに、教育実習、幼稚園でのボランティア活動の推奨、保育所実習、施設実習等において、理論と実践を結び付けながら統合的に学修する実践系科目の適正な運営にあたっては、実習担当者会議の教員を中心に専任教員全員でこれをサポートする体制が確立されている。

教職課程教育を行う上での施設・設備については講義室、演習室、音楽教室、個人ピアノレッスン室、造形実習室、アッセンブリホール、体育館、コンピューター演習室をキャンパスに設置し、各教室にはプロジェクターやスクリーン、ブルーレイ、ＤＶＤ等の各種機器を配置し、有効に活用している。また、本学独自の教育としての基幹をなす学修の場として華道教室、茶道実習室、学習成果の発表の場として「こころホール」等を完備している。さらに、教学部管理のもとに貸出用ＰＣ、ブルーレイ、ＤＶＤ等の各種再生機器、書画カメラ、配信収録機器等、多様化する授業形態に対応し得る機材の提供を管理運営している。

図書館は、令和５年３月 31 日時点で蔵書数 56,584 冊（うち絵本 3,086 冊）、視聴覚資料 536 点、閲覧席 24 席を備え、外部データベース閲覧可能なネットワークに接続されたＰＣを１２台設置し、教職課程の学習に必要な資料を用意している。購入図書の選定については、図書館運営委員会を中心として各学科の教員から募った推薦図書、非常勤教員および学生からの購入希望に基づき計画的に購入するシステムが確立されている。

〔長所・特色〕

幼児保育学科では、実習担当者会議の教員に幼稚園・保育所・施設の現場経験のある教員を配置することで、実習時における現場のニーズに合致した的確な指導を常に心がけている。就職を見越した就活指導に際して、この現場経験のある教員を配置することで円滑な実習運営を行うとともに教員養成につなげる的確な指導につなげている。教職課程の質の保障については、ＧＰＡ分布、単位取得状況、免許資格取得状況、免許取得に関する他の資格（保育検定等）の取得状況、学生個々のポートフォリオ「池坊短期大学 教職履修カルテ」（履修状況や資質、能力到達度の学生自身による自己評価等記載）等をもとに学科会議、学科研修、実習委員会等において定期的に点検している。

教員養成課程は本学の教育理念と深い連携を要する。また、学科としての特性が反映されるため、その必要性と意義を確実に学科ＤＰへ反映させるためにも、大学内での共通理解が不可欠である。こういった観点から、本学では教職課程委員会の構成員として副学長、教学部長、他学科教員をメンバーに加え、外部意見も柔軟に取り入れ、教職課程の質的向上につなげたオープンな形での管理運営を心がけている。教育内容や方法の組織的研究・研修を統括し、教学マネジメントにおいて大きな役割を担うＦＤ委員会とも連携を密にし、同委員会が半期ごとに実施している授業見学週間や授業アンケート等による集計結果の公表等を通して、第三者的立ち位置にある組織による監査が機能する体制を整えている。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料Ⅱ－１－１：学生生活のしおり[2022 年度版]

・資料Ⅱ－１－２：本学ホームページ

「大学概要／情報公開／学科等の設置認可申請書　設置の趣旨等を記載した書類」

https://ikenobo-c.ac.jp/wp-

content/themes/ikenobo/tandai/pdf/2015/application/secchinoshushi.pdf 池坊

・資料Ⅱ－１－３：短期大学教職課程委員会規定

・資料Ⅱ－１－４：2021 年度入学生用　履修カルテ

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目２－１　教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

本学の令和３年度全学アドミッションポリシーは以下のとおりである。
1.［知識・理解]入学後の修学に必要な基礎学力を有している。2.［思考力・判断力・表現力]他者とかかわり、対話を通して相互理解に努めると ともに、物事を多面的かつ論理的に考察し、自分の考えを的確に表現することができる。3.［探求心・主体性・多様性・協働・社会性]人間、自然、生活、文化等に関わる諸分野に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲、態度を有している。

幼児保育学科では、「和と美」の精神性の根源となる命の重みを理解し、未来を担うこどもたちの生きる力を育む意欲のある人物、また豊かな人間性と養護・教育に関わる学びを深める努力を惜しまず、社会に貢献しようとする高い志を持った人物を求める。アドミッションポリシーは以下のとおりである。1.子どもの「いのち」を尊重し、子どもの発達をささえようとする人。2.保育および幼児教育者となるための学業に積極的に取り組み、子どもと向き合いたいと思う人。3.保育および幼児教育に関する専門的な知識・技能を習得し、その専門職を志す人。を求める。

アドミッションポリシーについては学校案内をはじめ「総合型選抜（AO)ガイド」、「入学試験要項」にも掲載し、オープンキャンパスでの幼児保育学科に特化した体験授業や個別相談ブース、また学外での進路相談会や入試相談会等の機会を利用して、受験生やその保護者に具体的に説明している。

また、教職員による高校訪問においても、高校の進路指導担当または３年生の担任教員等に本学の選抜方法・方針について詳しく説明し、定期的に意見交換している。
幼児保育学科の９割を超える学生が免許を取得し、幼稚園、保育所、こども園、施設等に就職していることから、本学、学科における AP が教職を担うに相応しい学生が教職課程の履修を開始、継続するための基準として、DP、CP を鑑みたうえでも教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れているといえる。

〔長所・特色〕

入学前の学習成果の把握・評価は、入学試験によって実施している。アドミッション・オフィスとして入試委員会を設置し、特に総合型選抜(AO)においては、アドミッションポリシーに沿った内容でその理解度の確認を行う面談を実施している。他にも志望理由、将来の進路や高等学校での学習成果等、5 項目に分けて確認した上で総合評価している。新型コロナウイルスの蔓延防止対策もあり、入学試験時の密を避ける工夫として、オンライン面接や動画の提出による確認等も実現させた。総合型選抜(AO)は、各学科・コースのアドミッションポリシーに深く共感し、本学で学びたい意欲と熱意を持った学生に対して、学力試験のみでは評価できない多用な能力や可能性を評価して積極的に迎え入れるという位置づけである。そのため、別冊で作成する「総合型選抜(AO)ガイド」やオープンキャン

パス時のガイダンス、学科・コース別体験授業、総合型選抜(AO)説明会でもその方針を告知し、受験希望者に対しては、本学および幼児保育学科のアドミッションポリシーをあらかじめ十分に理解し、面談に臨むよう周知を行っている。学校推薦型選抜(公募)においては面接を実施しており、本学での学びと受験生の志望のマッチングについて、面接委員は細心の注意を払って把握するよう努めている。一般選抜においてはテーマ作文を選抜方法としているため、入試委員会の作問委員がアドミッションポリシーを念頭に置いて問題を作成している。

幼児保育学科としては入試合格者に対して入学前事前課題として課題を提供し、3 月に一日登校しての入学前プログラムを実施し、また別日に希望者へのピアノ個人レッスンを実施し、入学までの期間での保育者になるための動機づけと修学に向けた心構えについて確認する機会を持っている。また卒業後に保育者として就職するまでの道程については、基礎ゼミ､専門ゼミに専任教員を配置し､個々の学生に合わせた修学支援を実施している。また実習支援室を設置すると共に専属職員を配置し、実習担当者会議の教員と連携して細やかな支援に努めている。

…………………………………………………………………………………………………

基準項目２－２　教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

幼児保育学科では入学した時点から始まる学生生活の到達目標として進路、就職を位置付けており､入学から卒業､就職までを基礎ゼミ、専門ゼミを専任教員が受け持つことで、個々の学生への学修支援のみならず、学生生活、就職支援においても一貫したサポート体制を取っている。また学内で構築されたポータルシステム上のチュートリアルで修学状況等の情報の共有化を図り、システム上に置かれた学生カルテをもとに教授会、学科会議での活用、各種委員会、教学部等と連携しながらの学生の支援に活用している。また学内に幼児保育学生支援室やキャリア支援室、学生サポートルーム（カウンセラー在中）を配置し、教職員一体となって学生対応、各種支援にあたっている。また、本学では、卒業してからがキャリアの本当のスタートであると考え、独自の「卒業後 3 年サポートシステム」を整備し、卒業生一人ひとりが充実した社会生活を送ることができるよう､「キャリアプラン」「ライフプラン」両方の側面からの支援を卒業後概ね 3 年までを目処に実施している。幼児保育学科の卒業生もこのシステムを大いに活用している。また、ここでの卒業生（現役幼稚園教諭）との情報共有をもとに在校生への生の現場情報として共有、活用しながら幼稚園に就職希望の学生への就職支援につなげている。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料Ⅱ－２－１：学生生活のしおり[2022 年度版]

・資料Ⅱ－２－２：本学ホームページ（https://ikenobo-c.ac.jp/）

「ホーム＞就職支援・編入情報」

https://ikenobo-c.ac.jp/careersupport/

・資料Ⅱ－２－３：2022 年度入学試験要項

・資料Ⅱ－２－４：2022 年度大学案内

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム

基準項目　３－１　教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

幼児保育学科では、建学の精神である「和と美」は、人間活動の本質である「対話(コミュニケーション)、共生」の精神性を包含していると捉え、対象を知り、また自らを知ることで相互の差異を認め合い、支え高め合うことでさらなる「和と美」を生み出すことを目的とする。この精神性を基軸に、時代や地域社会が要請する保育および幼児教育の専門職を養成し、社会に貢献できる人材を育成する。教職課程教育の目的・目標をこれに内包する。

幼児保育学科のディプロマポリシーは以下のとおりである。

①[知識・理解] 保育、幼児教育現場における「対話・共生」の環境等に関する幅広い専門知識を有している。

②[思考・判断] 保育、幼児教育現場の現状を理解し、子どもの豊かな心を育成するための諸課題に対して、専門的見地から多面的かつ総合的に思考することを通して、状況判断 を行うことができる。

③[関心・意欲・態度] 子どもの育成支援に携わる人間としてのあり方や責任の重みを深く認識し、具体的かつ現実的な知識・技能の体感的理解のために主体的に取り組むことができる。

④[技能・表現] 高い倫理観と良好なコミュニケーションを保持し、保育、幼児教育を担うための実践的能力を身に付けた専門職として活かすことができる。

上記、４つのディプロマポリシーを基に幼児保育学科におけるカリキュラムポリシーの作成を行なっている。

本学はキャップ制(履修上限単位数)を設けており、年間で 1 年次 48 単位、2 年次 56 単位を超えての履修登録を認めていない。(大学コンソーシアム京都の単位互換制度による履修を除く)　ただし、保育士資格・幼稚園教諭二種免許の取得のために必要となる単位数の関係から幼児保育学科においてはキャップ制の適用は行っていない。

幼児保育学科で定めた教育目標を達成するために、教養教育科目(一般教養)と専門教育科目から構成し、2 年間で卒業(学位取得)に必要な単位を取得させる。また専門教育科目については、資格・免許の取得要件を満たすために、文部科学省や厚生労働省における資格・免許の認定要件に定められた内容を反映した教育課程で編成している。また、建学の精神の教育理念に基づいた DP を定め、DP で示した学習成果としての資質・能力を身につけられるように、CP を定めている。幼児保育学科では、幼稚園教諭 2 種免許状、保育士資格の取得、もしくは同等の能力の獲得を求めており、免許、資格取得に対応した教育課程を編成している。また、DP に示した問題解決能力や社会貢献力を育成するために実践、体験を重視した教育を実践している。

幼児保育学科では、保育の専門家としての専門性を体系的に学び、子どもやその子どもを取りまく「環境」「文化」等を理解し、創造し得る知識と技能の基礎から応用までを習得

するために「専門教育科目」を設置している。また、高度な知識や技術を裏付けする資格・免許が取得できるようにも構成している。これによりディプロマポリシーで明記した能力を習得すべく、学習成果に対応した教育課程が編成されている。さらに、アクティブラーニングの手法についても、講義及び演習のいずれの形式の授業でも積極的に導入し、実践している。

教育課程については、「教養教育科目」と「専門教育科目」から構成し、以下に述べるとおり体系的に編成している。まず、教養教育科目は歴史的・文化的・社会的な基礎知識を身に付け、知性ある社会人育成の基盤とするために設置している。本学の建学の精神を教える「いけばなと現代生活」、「気づきと思考力」を配置して必修科目としている。幼児保育学科の専門教育科目は、63 科目が配当されている。1 年次生で「基礎ゼミ」、2 年次生で「専門ゼミ」を通年科目として配置し、初年度教育から専門教育そして卒業制作展に至るまでを一貫して教育できるよう、一人の専任教員が担任として受け持つシステムとしている。幼児保育学科は、保育士資格・幼稚園教諭二種免許の取得を目指す養成機関として、15 科目の必修科目を設置している。

成績評価は、短大設置基準等に則り、客観性や厳格性を確保すべく、学則および「池坊短期大学科目履修規程」に基づいて厳格に適用している。教育の質保証に向けて厳格に適応するため、平成 20 年度から全ての科目において「授業回数の 3 分の 2 以上の出席がないと受験資格を失う」と定め、この要件を満たさなければ単位認定試験を受けることができないとしている。その上で授業態度や課題提出状況等を平常点として考慮し、単位認定試験(筆記試験、レポート試験、実技試験等)等 により担当教員が評価する。成績評価は、100 点満点で S・A・B・C・F の 5 段階で評価し、60 点未満を F 評価の不合格としている。F 評価となり単位取得できなかった場合においては、学生からの申請により教授会承認を経て、再試験を受けることができる。また、正当な理由で単位認定試験を受けられなかった場合は、教授会承認を経て、追試験を受けることができる。試験監督は原則として科目担当の教員が受け持つが、その要領や注意事項を事前に文書で周知して、特に学生の不正行為に対し厳格に対応することとしている。

次にシラバスへの明示である。設置する全ての科目については、シラバスのフォーマットを統一し、科目名、科目担当者、科目区分、単位数、開講時期、授業形態といった基本的な情報はもちろん、学習目標(到達目標)、ディプロマポリシー、授業テーマ(教育目的)、授業概要、授業計画、評価方法(成績評価基準)、準備学習内容、履修条件、免許・資格との関連、教科書・参考書・用具、履修条件、オフィスアワー(授業相談)、学生へのメッセージ(履修上の注意等)と仔細に渡り記載している。シラバスは製本化するほか本学ウェブサイトにおいても広く公表している。

幼児保育学科の教職課程においては、文部科学省から示された平成 31・ 令和 1(2019)年度からの新課程に対応するカリキュラムを準備し、平成 30(2018)年度に入って文部科学省より正式に認可をいただいた。また、厚生労働省による保育士養成課程の見直しも同時期に行われ、こちらについても申請し、認可をいただいている。

令和 3 年度もこれを踏襲し、新しい教育課程に準じた上で、随時、新過程カリキュラムとの整合性の確認、運営上の問題点を見直す機会を整備し情報共有することで、専任教員

と非常勤教員が連携・協力して各授業のカリキュラムとの整合性の確認や見直す機会を整備している。

〔長所・特色〕

幼児保育学科では、教育実習（前期・後期）をカリキュラム上、2 年次の 5 月、10 月に設定していることから教職課程における基礎科目を１年次に概ね配置し、専門科目の履修に関しては２年次に配当している。これは１年次で培われた基礎力を土台に２年次で行われる教育実習に学びの成果が発展的に円滑につながるための学修時期を考慮したカリキュラム配当となっている。実習は学科内組織である専任教員からなる実習委員会が管理運営し、定期的な会議を開催し課題や問題点について対応を検討する。また、実習の実施にあたっては、幼児保育学科で定めた履修条件を基に、「実習の手引き」を作成し、学生に配布することで、実習・事前事後指導に臨む態度や実習を許可する条件、実習の中止や辞退等について詳細に定め、これを学生に明示することで、実習に向かう心構えや姿勢等への周知徹底を図っている。教職課程を含む教育課程全体における学生の修学状況については毎月１回開催される学科会議で教職実践演習担当教員や実習担当教員および実習担当者会議の教員と各ゼミ担当教員において詳細な報告がなされ、専任教員間で情報共有しながら個々の学生就学状況に合致したサポート体制を構築している。また、教職課程の集大成である「保育・教職実践演習（幼稚園)」(2 年次後期に配当）の効果的な学習に資するよう学科をあげて組織的な連携を図っている。

本学科では実習関連の科目を特に重視している。そのため、教育実習や保育実習のための「実習指導」を科目設定するとともに、課外で「実習オリエンテーション」を置いて補助的に、個々の学生に対応した細やかな指導を行っている。さらに、保育・幼児教育にとって重要である 5 領域のうち、特に「表現」に係る科目については専任教員を配置し、「華道教室」、「茶道実習室」、「造形実習室」、「ピアノ教室（個人レッスン室含)」、「アッセンブリホール」「こころホール」等の専門教室を備え、学習成果の達成のために手厚い指導が可能な体制、設備を有している。

……………………………………………………………………………………………………

基準項目　３－２　実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

幼児保育学科では地域・社会との連携事業の推奨に努めている。こうした学生の活動をサポートするため、教職員は毎年「花きらきら委員会」を組織して、その準備や運営にあたっている。学生は、こういった経験をもとに保育者としての地域との連携や共生のあり方、貢献することの意義について実践的に体験する場を通して学修している。

キャンパス内に隣接する池坊保育園とも密接な関係を持続し、保育園の夏祭り、運動会

等において学生のボランティア参加を推奨している。

また、本学の位置する下京区図書館とも連携して、12 月にクリスマスイベントを共催し、学生の修学した成果（うたや演奏、絵本の読み聞かせ、造形作品の展示等）を子どもたちとの交流の場にて発表することで地域への還元を図っている。

〔長所・特色〕

本学は日本三大祭りの一つ祇園祭の中心である鉾町に位置する。そのため例年は、祇園祭の宵々山と宵山(7 月 15・16 日)の 2 日間に、祇園祭協賛の学園行事「花きらきら」を開催し、学内を一般開放している。まず 1 年次生は、7 月 12 日に全員が浴衣 を着用して鶏鉾の「曳き初め」に参加している。また、花きらきら開催中には、ゼミごとに鉾に搭乗して鉾ごとの調度品や、近隣の個人宅で屏風飾りとして公開される美術品の鑑賞など、祇園祭の文化的・歴史的な側面を直に学習する機会としている。学内では、1・2 年次生による花展や茶会等を開催し、祇園祭に訪れる市民や観光客に見学・参加していただいている。他にも、厄除けの粽作りの手伝いや粽授与にも参加して、祇園祭に関わる地元の方たちとの交流や体験を通して日本文化や伝統を学ぶ機会としている。特に花展では全学生が、いけばな作品を出瓶しており、日頃の学びの成果を学内外多くの方に披露する場として機能している。

〔取り組み上の課題〕

令和 3 年度においては、コロナ禍での対応処置として大学施設の一般開放は断念した。花きらきら「花展」は学生だけで執り行い、花展の様子は Web 上での公開とした。

また、コロナ禍であったものの祇園祭の鉾建ては 2 年ぶりに行われた。そのため鶏鉾保存会と協議の上、鉾建て終了後、本来の曳き初めの日に、コロナ禍で祇園祭を体験できていない 2 年次生を対象に引綱を持っての写真撮影ができることとなった。以上のように、コロナ禍での地域連携のあり方については、今後も状況を鑑みながら最良の展開を検討する必要があると思われる。

＜根拠となる資料・データ等＞

・資料Ⅱ－３－１：2021 年度　学生生活のしおり

・資料Ⅱ－３－２：実習の手引き 2021

・資料Ⅱ－３－３：2021 年度　教職課程年報

Ⅲ　今後の教職課程・運営の課題

今後の課題として以下の点があげられる。

・教職課程におけるコアカリキュラムの実施状況の確認、及び、各授業におけるアクティブ・ラーニング等の導入状況の確認、修正の学科内体制を確立する。

・京都府内、京都市内、及び近隣府県内の幼稚園との連携、情報共有、意見交換等に注力し、教育現場との連携をさらに深めていくことが必要と考えられる。

・コロナ禍中での教育実習の実施内容（一部学内実習での実施等）が想定され得る状況が続くことが今後も想定されるため、実習協力園との連携を密に取りながら、また、新たな実習協力園の開拓等、学生が円滑に教育実習に取り組める環境の整備を図ることが必要と考えられる。

・キャリア支援については、学科とキャリア支援室、実習支援室や教学部等とのさらなる内容の連携が求められ、学生への就職情報の適切なアドバイスと情報提供がさらに必要と考えられる。

・大学の所在地が鉾町であることから、地域連携における観点からも京都「祇園祭」においての地域交流、ボランティア等に学生が積極的に関わることができる企画や運営を積極的に検討する。

・教職課程に関わるすべての教職員が学科会議や実習担当者会議、学内ポータルサイト等を通して情報を随時更新しながら共有することで常に自己点検・評価できる体制を確立する。

現況基礎データ一覧　　　　　　　　　　　　　　令和５年４月１日現在

法人名 学校法人　池坊学園					
大学・学部名 池坊短期大学					
学科・コース名（必要な場合） 幼児保育学科					
１　卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
①　昨年度卒業者数					５８
②　①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）					４８
③　①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も１と数える）					４５
④　②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）					１５
⑤ のうち、正規採用者数					１４
④ のうち、臨時的任用者数					1
２　教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（　　　　　）
教員数	3	2	2	0	0
相談員・支援員など専門職員数					1